



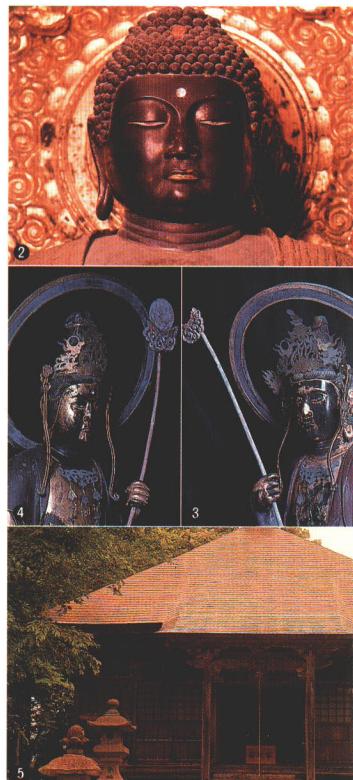
街道は人や荷物が通るだけでなく、神々もまたここを去来したのである。村の入口には道祖神・石地蔵。二十三夜塔などを祀つて厄神が侵入するのを防いだ。村の中には、伝説に語りつがれてきた庶民の神々があり。塔寺の茶碗塚地蔵・坂の下の夜泣地蔵・船塚の北向き地蔵などはこのような神であった。

神仏の伝説には、その発祥を古代に溯つて説くものが多い。高寺山伝説もこのようないい伝説のひとつで壮大な会津の仏教文化発祥伝説となつてゐる。欽明天皇元年染国僧青巖が庵を結んだのが始まりといわれ、舒明天皇の時代南岳慧慈の弟子惠隆がこれを継ぎ「高寺三千坊」と呼ばれる程の坊舎を擁しておおいに栄えたという。



塔寺には高寺山三十六坊と呼ばれる坊(修業所)があり、"高寺山仏教"と称された仏都会津の発祥地である。
重要文化財の「木彫立木觀音像」や宇内薬師如來坐像は、今もたくさんの人々の厚い信仰を集めながら決して色褪せることなく、静かに輝きを放ちつづけている。

街道に残る信仰の跡



- ① 村の入口に立つ地蔵尊
- ② 会津五薬師のひとつ宇内木造薬師如來坐像(国指定重要文化財)
- ③ 宇内薬師脇侍、月光菩薩像(県指定文化財)
- ④ 宇内薬師脇侍、日光菩薩像(県指定文化財)
- ⑤ 宇内薬師堂
- ⑥ 千手觀音脇侍、二十八部衆
- ⑦ 木造千手觀音立像(塔寺立木觀音像)の右側御手(国指定重要文化財)

観音堂は立木觀音の巨体を祀るにふさわしく、直径一メートルあまりの円柱のうえに大斗・平三斗を備え、板壁・茅葺き・寄せ棟の大堂である。観音堂・本尊とともに鎌倉時代初頭の作と考えられ重要文化財になつてゐる。

茅葺き・寄せ棟の大堂である。観音

堂・本尊とともに鎌倉時代初頭の作と考えられ重要文化財になつてゐる。

水八幡を勧請したに始まるといわれ、重文「塔寺八幡宮長帳」をはじめ数々の宝物が納められている。

旧越後街道から北四郎程の高寺山麓には宇内薬師がある。会津五薬師の西方薬師でこれにも高寺下ろしの西会津町鳥追い觀音・新鶴村中田觀音とともに会津三觀音のひとつで、信者の参拝は絶えることがない。

観音堂の西二百六十には心清水八幡神社がある。この神社は代々の領主の信仰熱く、会津總鎮守でもあつた。その起源を尋ねると、源頼義が奥州安部頼時追討の時山城の國から石清

来に次ぐ古仏で、堂内には薬師如来の眷属である十二神將などの仏像が納められている。ここには重要民俗資料としての元禄時代に奉納されたたくさんの絵馬がある。